

わが市各議員の一般質問

8月定例議会
代表質問



石渡 康郎
議員

まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況

問 昨年10月に策定された「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の成果や進捗状況はどうか。

答 公衆無線LAN設備を市内の観光拠点に整備し、印旛沼における環境学習船舶の購入、また、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える、「子育て世代包括支援センター」を開設し、本年4月から運営を始めた。

日本遺産の活用

問 土産物が一か所で購入できるような店舗の建設等、新町地区の活性化を含めた方策を検討すべき。また、大型バスの運行経路の整備や、バス駐車場を整備することも必要。

答 佐倉の歴史的施設や城下

8月定例議会
個人質問



高木 大輔
議員

「内なる国際化」にCSJ

問 市内の外国人登録人口が平成28年3月末では2477人(前年比8.5%)と毎年増加しており、国別の登録者数では、中国、フィリピン、アフガニスタン、韓国などの国が上位となっている。市民の国際交流を政策として推進させるためにも、外国人の受入れや、滞在・居住人口を増やす取組み及び外国人の交流に関する考えを問う。

答 日本遺産認定を契機に、東京オリンピックを目指し、外国人観光客の受入体制の整備拡充に努め、佐倉に関心をもつ外国人を増やしていきたい。外国人との交流事業については、国際交流基金と協働で日本語講座等を実施している。

観光面の取り組みだけでなく、佐倉に住んでいる外国人の取り組みを充実させ、定住人口の増加に努めていただきたい。

将来を見据えた農業施策

問 農機具の出し手と、必要としている高齢の農家や新規就農者等とのマッチングを行う「農機具バンク」のような仕組みと佐倉市の農業の将来を考えたとき、農業用施設の老朽化対策や、水田の区画を再整備するなどが必要と考えるが、如何か。

答 「農機具バンク」は、農業者等が保有する農業機械を有効活用し、営農活動の促進に繋がることから、双方が必要としている情報を積極的に提供していきたい。また、農業施設の老朽化対策や水田の区画再整備等については、国や県の制度を活用し、地域の実情や要望等を考慮し、必要な事業について支援を進めて行く。

住民監査請求にCSJ

問 今回、市民から住民監査

11月定例議会
個人質問

敬老会事業にCSJ

問 9月から1か月にわたり市内23箇所を対象者2万人、約6千万円の予算で行われている敬老会は、将来を見据え大胆な事業の見直しが必要ではないか。

答 開催期間を長目に設定し、高齢者の方の所在の確認の機会とあわせ、外に出る機会となるように取り組んでいく。

定住人口の確保にCSJ

問 市の人口推移の問題として15歳から30歳人口が、28年3月時点において、前年同月比で764人減少しており、近隣の成田市255人、八千代市47人と比較しても減少幅が大きいが、どのような対策をしているのか。

答 定住人口の確保に向けて都内などで定住促進のPRに努めている。

請求が提出されたこと、また監査の結果を、市長はどのように受け止めているか

答 私(市長)は、市民団体代表からの住民監査請求を、厳粛に受けとめている。監査の結果、請求は却下・棄却となったが、今回の監査請求及びその結果を貴重な意見と受け止め、今更以上で誠に誠意、市政に取り組んでまいりたい。

11月定例議会
代表質問



爲田 浩
議員

平成29年度当初予算にCSJ

問 どのような姿勢で予算編成に臨まれるか、その基本方針と重点的な課題について伺う。

答 少子高齢化対策、防災対策、道路、橋梁及び公共建築物の老朽化対策について重点的に施策を進めてまいりたい。

ブライドの醸成を目的とした、子どもからお年寄りまで誰もが取り組める「佐倉ドリル」を作成し、その中から出題する「佐倉学検定」の開催を提案する。

8月定例議会
個人質問



敷根 文裕
議員

局地的豪雨(ゲリラ豪雨)による今後の対応について

問 何度も被害を受けている志津地区及びJR佐倉駅周辺での局地的大雨による浸水被害を踏まえて、佐倉市における今後の雨水対策について伺う。

答 今後、志津地区は既存の調整池の掘り下げやかさ上げを実施、JR佐倉駅は29年度に北口区域における計画を策定し対策を進めるよう関係部署に指示します。

※11月定例会で調整池対策に関して計3860万円の補正予算がつき全員賛成で可決されました。

人口増加のための空き家対策について

2. 近隣市では大学の医学部新設に成功したり、市域を超えた広域連携による子育て施策の充実を図っている事例など、様々な成果をあげている。今後、益々激化する自治体間競争の中で、佐倉市は、新しい具体的な事業も見当たらず、自治体の中で埋没せずに生き残れるのか、将来に向けての不安を感じざるをえない。市長には、指導力と実行力を発揮していただき、魅力あふれる佐倉を作っていただくよう要望する。

11月定例議会
代表質問

問 平成29年度地方交付税における錯誤措置の影響について伺う。

答 生活保護費医療扶助受給者の報告数値の誤りによる返還額と、ほかの項目での錯誤額の合計約13億9000万円を平成29年度の地方交付税において相殺する形で返還することとなるため普通交付税の大幅な減収が見込まれるが、財政調整基金から繰り入れを行い、市の施策を滞りなく推進し、市民サービスに影響が生じないように努めていく。

新しい教育委員会制度について

問 新制度での教育長就任

問 国で空き家の中古住宅リフォームに対する補助金が可決されたが佐倉市も独自に実施しており本年度も抽選となりすでに終了したとある。家族の近居、同居支援の補助金についても同様である。人気があるのであれば人口増加、空き家対策に直接繋がるこうした補助金に対して件数を増やす予定はないのか伺う。

答 空き家対策として重要な事業と認識しておりますので今後、補助件数の増加に向けて関係部局と協議を進めてまいります。

11月定例議会
個人質問

職員の再任用について

問 再任用職員人件費が規則変更前は合計9千221万円だった所、変更後はわずかに5年で2億9千843万円と2億円以上増加し3倍以上に膨れ上がっている。そして再任用職員の人数も35人から75人と2倍以上になっている。

また、平成25年3月までは部長級であれば年収269万円であった所、4月以降は主幹補という「課長相当職」で採用し、同じ職場に戻る職員もいるため現在の職員の動き方にも影響を及ぼし、年収も617万円と給与に関しても規則変更前の約2.3倍になっている。

の抱負とその考え方を伺う。

救急医療体制の問題について

問 休日夜間診療所、休日当番医及び印旛市郡小児初期急病診療所において休日や時間外における初期急病患者に対応するための体制は整備されているが、時間帯や診療科目に該当しない急病患者の受け入れ先はどのようになっているか伺う。

答 印旛市市広域市町村圏組合において2次救急医療輪番体制を構築し対応しているが、当番となっていない病院であっても手術など他の患者の対応に追われている場合などは他の受け入れ可能な病院へ搬送する場合がある。

順天堂大学の誘致について

問 佐倉市における順天堂大学の誘致は終わってしまったのか。

答 順天堂大学については、現状において本市への進出意向が明確になっている唯一の高等教育機関であり、昨年7月のトップ会談において広く検討したいと見解を示されていることからストップするものではないものと考えている。

11月定例議会
関連質問



櫻井 道明
議員

- 1 平和首長会議国内加盟都市会議について
- 2 市民防災訓練について
- 3 順天堂大学の誘致について

与えている。

このような規則の変更は、日頃から「財政が厳しい」と言いながら、東京都の小池都知事のように身を切るどころか「身内の給料は2.3倍にしました」となるため納得のいく理由がなければ市民に説明が出来ない。なぜ議員も知らない所でこのようなルール変更が行われたのか伺う。

問 再任用職員の近隣市の事例を調べてもこのような高額待遇で採っている自治体はない。市の考えを伺う。

答 今後、見直しを行いたい。

豊富な職員が再任用に就くことで、組織力の強化を図るため」と答弁。一方、敷根議員は給与が200万円台から400万円台で再任用職員数も少ない近隣市の例を挙げ、「佐倉市は再任用職員を優遇している」と反発。藤和雄市長は「見直し作業を行いたい」と答えた。

再任用年収617万円 見直し検討へ

平成28年12月8日 千葉日報記事

敷根文裕議員の質問が掲載されました

佐倉市の再任用職員の年間給与が最大617万円(再任用職員は退職時の級にかかわらず行政職は一律3級で採用され、勤務日数は週3日。年間給与の見込みは269万円だった。現行制度では、退職時比較再任用職員の給与が高く財政を圧迫しているとの敷根文裕議員が指摘し、市は見直しを検討するとしていた。

市によると旧制度では、例えば部長(7級)再任用職員は退職時の級に相当する給与(6級)で採用し、年間給与見込みは617万円。この処遇で勤務する職員は現在5人いるという。制度変更の理由について市は「当時管理職の退職が続き、経験の浅い管理職が増えていた。業務経験の豊